

## 環文ミニセミナー（第22回）

### 事務局

10月7日（金）開催の、第22回環文ミニセミナーの概要をご紹介します。今回は「食料危機やエネルギー危機の中でどう生きていくか」をテーマに、藤村代表からの簡単な説明の後、フリーディスカッションを行いました。

#### 1. 「日本の食とエネルギーの現状」 藤村コノエ

コメの消費減少、食生活の欧米化、農業従事者や農地の減少などが原因となって、日本の食料自給率は昭和35年あたりから大きく減少し、先進国の中でも目立って自給率が低い状態。ほぼ国産の米以外は、食料及び畜産用飼料を輸入に頼る割合が大きいため、食料安全保障の面で懸念があるだけでなく、日本のフードマイレージは非常に大きく、海外での生産・輸送過程で多くのGHGを排出することから、気候変動にも悪影響を及ぼしている。更に生産国では農地への転換による森林破壊、農業用水の多用、化学肥料による水・土壌汚染などにより現地の環境に負荷をかけ、生態系にも影響を及ぼしている。

一方、日本では食品ロスの問題がある。最近では認識が高まり減少傾向にあるものの、一人当たり年間47キロ程度の食品廃棄が発生している。

エネルギーに関しては、自給率は12.1%程度にとどまり、再エネの導入率も欧米に比較して低く、最近では石炭火力や原発再稼働の声まで出る状況である。

このようなことを踏まえ、今日は「食料もエネルギーも自給率の低い日本。世界的な食料・エネルギー危機の中で私たちはどうそれを乗り越えていけばよいのだろうか？」をテーマに、自由に発言していただきたい。

#### 2. フリーディスカッション（主な意見のご紹介）

- ・日本は食やエネルギー問題をおろそかにし、海外に頼り切っている。今は日本が買いたいと思えば、食料もエネルギーもいくらでも手に入る状況だが、これは世界が平和で安定した状況であることが前提。ウクライナ、気候変動、インフレなど色々な危機がある。
- ・日本は今まで資源小国といわれてきたが、太陽、風、水（食料の面）については、資源が多い国である。他の雨の降らない途上国と比べると随分と恵まれている。上手に変革していけばよい。
- ・多くの人は自給率に関心を持っていない。
- ・耕作地を引き受ける人がいない。日本の食料自給率が1990年の40%から37%までに減っている。若い人も一部は希望を持って農業に従事するが、このままの体制では自給率は上がらないと感じる。
- ・人口減少で生産者人口が減っていることが問題。一次産業の所得補償をすべき。
- ・二十数年前は無農薬でも虫にやられなかったものが今ではやられている。アブラナ科の白菜や小松菜など。気候が変わってきたことの影響で、少しずつ生産にダメージが来ている。
- ・リンは輸入に頼っており、入ってこなくなったときに困る。輸入量と同じ量が下水に流れているため、現在、政府は下水汚泥からリンを回収しようとしている。
- ・消費を通じてどのように社会に貢献できるかを考えており、国産のものを食べよう、使おうとしている。
- ・自分のところでは発電ができないが市民発電に投資してる。
- ・個人では再エネ100%の電気を購入したり省エネしたりしているが、なかなか広まらない。仕組みが変わらない限り大きくは変わらないと感じる。1人1人ができることを伝えつつ、仕組みとしてどうすればよいかを考えていきたい。